

もの言う牧師のエッセー… 第10話 「脱走の果てに」

16年間に渡り逃亡を続けていたオウム真理教元幹部の出頭と、それ
にまつわる警視庁による"門前払い"や、殺人容疑の台湾人留学生が任意
同行中にパトカー車内で刃物で自殺するなど新年早々不気味な事件が続い
ている。

そんな中、1月11日に広島刑務所から殺人未遂の罪などで服役中の中国
人受刑者が脱走した。当受刑者はかつて9都道府県を荒らし回った窃盗団
のリーダー格で、パトカーとのカーチェイスや警官に発砲したこともある
凶悪犯である。

広島市民に不安が広がる中、警察庁はこれまたオウム事件以来という
"特別手配"に踏み切ると同時に、彼が東京江東区などを根城に暗躍する
中国系愚連隊「怒羅権」(どらごん)のメンバーである可能性も公開した。
怒羅権といえば、2011年5月14日墨田区の路上で、広域暴力団住吉会
の幹部を半殺しにした事件が記憶に新しい。県警は800人を動員して警戒
体制を敷き、広島市内の小中高約90校は午前8時に一斉登校するなど物々
しい雰囲気にも包まれた。正に市民は恐怖のどん底に突き落とされたと言っ
てよい。

が、しかし、犯人は3日後に抵抗することなくあっさり逮捕された。

「疲れた。刑務所に帰る。」と言う言葉を残して。日本中を騒がし、これ
ほどの"行動力"のある男の帰る場所が刑務所しかなかったということに、
人間の持つ悲劇を見るのは私だけだろうか？創造主である神は叫ぶ。

**「私は決して悪者の死を喜ばない。かえって、悪者がその態度を悔い改めて、
生きることを喜ぶ。悔い改めよ！悪の道から立ち返れ！なぜあなたは死のう
とするのか？」**

エゼキエル書 33章 11節

と。神に背を向け"脱走"し、刑務所(死)に向けて突き進む、本来"神の子"
である人類に向かってキリストは今日も語りかける。「帰って来い」と。我々の
帰るべきところは決して刑務所などではなく、"永遠の命"の存在する"天"なのだから。

2012-1-13

